

公益社団法人 日本天文学会

2024 年度事業報告書

I. 出版物の刊行(定款第 2 章第 5 条 2 項に該当の事業)

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第76巻2号ー6号、第77巻1号の計6回刊行。総論文数112編 (うちLetter 8)、総頁数1,473頁、電子版および紙版(発行部数40部)、偶数月発行。
2. 天文月報 : 第117巻5号ー12号、第118巻1号ー4号を刊行。総頁数752頁、発行部数3,400部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2024年秋季年会発行総頁数306頁、190部印刷。2025年春季年会発行総頁数296頁、200部印刷。
4. ジュニアセッション:予稿集76頁、450部印刷。
5. シリーズ 現代の天文学 : 第6巻と第8巻の第2版および新たに第18巻アストロバイオロジーを刊行した。また、英語化事業として「Position and Motion of Celestial Bodies」を刊行した。

II. 年会の開催(定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業)

1. 2024 年秋季年会

2024 年 9 月 11 日(水)から 13 日(金)の 3 日間、関西学院大学神戸三田キャンパス (兵庫県三田市)にて開催した。遠隔地から参加していただけるように、現地およびオンライン (ベストエフォート)のハイブリッド開催とした。ポスター講演は、オンラインで掲示するとともに、現地会場でも 掲示を行った。講演件数は口頭講演が 512 件、ポスター (b・c) 講演が 126 件で、合計 638 講演であった。参加登録人数は会員 992 名、非会員 77 名の計 1,069 名であった。本年会では、通常講演のほかに企画セッション 2 件、天文教育フォーラムを含む特別セッション 2 件、欧文研究報告論文賞 の受賞記念講演を開催した。記者発表 (講演 2 件) は 9 月 10 日(火)にオンラインで開催した。展示コーナーは賛助会員による展示 2 件の展示があった。また保育室を開設し、1 家族 1 名の利用があった。懇親会の開催は見送られた。公開講演会は 9 月 14 日(土)に三田キッピーモールで開催し、約 50 名が来場した。

2. 2025 年春季年会

2025 年 3 月 17 日(月)から 20 日(金)の 4 日間、水戸市民会館 (茨城県水戸市、ホスト : 茨城大学)にて開催した。遠隔地から参加していただけるように、現地およびオンライン (ベストエフォート)のハイブリッド開催とした。ポスター講演の掲載は、オンラインで掲示するとともに、現地会場でも 掲示を行った。講演件数は口頭講演が 508 件、ポスター (b・c) 講演が 105 件 (うちポストデッドラインペーパー1 件) で、合計 613 講演であった。参加登録人数は会員 986 名、非会員 63 名の計 1,049 名であった。本年会では、通常講演のほかに天文教育フォーラムを含む特別セッション 2 件、林忠四郎賞・研究奨励賞の受賞記念講演、ジュニアセッション (3 月 20 日(木))を開催した。ジュニアセッションの講演数は 63 件であり、現地 305 名、オンラインから 72 接続の参加があった。記者発表 (講演 2 件) は 3 月 14 日(金)に開催した。展示コーナーは賛助会員による展示 5 件と正会員による 1 件の展示があった。また保育室を開設し、4 家族 5 名の利用があった。懇親会は 3 月 19 日(水)に行い、出席者は来賓 3 名を含む一般 221 名、学生 233 名の合計 454 名であった。公開講演会は 3 月 16 日(日)に水戸市民会館ユードムホールで開催し、約 120 名が来場した。

Ⅲ. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第 6—8 章第 36—57 条に該当の事業)

1. 代議員総会

日 時：2024 年 6 月 5 日（水）16 時 00 分～17 時 23 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2024 年 9 月 12 日（木）11 時 50 分～12 時 42 分

場 所：関西学院大学（ハイブリッド開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 1 月 14 日（火）16 時 00 分～18 時 35 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 3 月 18 日（火）11 時 50 分～12 時 48 分

場 所：水戸市民会館（ハイブリッド開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2024 年 5 月 21 日（火）16 時 00 分～17 時 58 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：百瀬 宗武（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2024 年 9 月 9 日（月）16 時 00 分～17 時 40 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2024 年 12 月 26 日（木）16 時 00 分～18 時 30 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 2 月 26 日（火）

方 法：定款第 40 条、電磁的記録による議決

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 3 月 17 日（月）19 時 00 分～20 時 25 分

場 所：水戸市民会館（ハイブリッド開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2024 年 9 月 12 日（木）16 時 20 分～17 時 20 分

場 所：関西学院大学（ハイブリッド開催）

司 会：勝川 行雄

日 時：2025 年 3 月 18 日（火）16 時 00 分～17 時 30 分

場 所：水戸市民会館（ハイブリッド開催）

司 会：勝川 行雄

4. 公益社団法人 2023 年度監査

日 時：2024 年 5 月 15 日（水）14 時 30 分～16 時 00 分

場 所：国立天文台すばる棟院生セミナー室

出席者：松尾宏監事、山田亨監事、鈴木竜二会計理事、酒向重行会計理事、町田真美庶務理事、
佐藤良信事務長

IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の 22 の委員会と 1 の顧問において構成メンバー（任期 2 年の 2 年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

会長候補者（任期：2025 年度～2026 年度の 2 年間）の選挙を定款第 17 条および会長・副会長・理事・監事選考細則に基づき行った。被推薦者が 1 名のみであった為、細則に従いその 1 名を会長候補者とした。以上の選挙結果を天文月報 117 巻 12 月号において報告した。

◇ 推薦委員会

本年度は代議員選挙が行われない年度であったので、活動は無かった。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2024 年度は、170 編の論文が投稿され編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を 6 号を発行し、112 編・1,473 頁を掲載した。LaTeX クラスファイルを 2024 年に改訂した紙面デザインに対応したものに更新した。出版委託先の OUP 社の依頼により欧州アクセシビリティ法への対応として著者による各図の Alt Text（代替テキスト）の必須化およびオンライン校正の導入を行った。また、オープンアクセス以外の論文の無料公開期間を 2025 年から「出版後 3-10 年目」の 7 年間に変更することになった。編集顧問委員合同会議を 2024 年 12 月 24 日にオンラインで開催し、今後の特集企画や今後の課題などについて話し合った。また、OUP 社の担当者も同席し現在の刊行状況や科研費関連論文の即時オープンアクセス化への対応などについて意見交換を行った。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問委員合同会議を 2024 年 12 月 24 日にオンラインで開催し、今後の特集企画や今後の課題などについて話し合った。また、OUP 社の担当者も同席し現在の刊行状況や科研費関連論文の即時オープンアクセス化への対応などについて意見交換を行った。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、Zoom 会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。また、2024 年 9 月 13 日に年会会場（関西学院大学）と国立天文台、2025 年 3 月 3 日に国立天文台にて対面編集会議を開催した。内容面では、4 つの特集（IXPE 特集（前年度からの継続）、JWST 特集、すばる 25 周年特集、ひさき特集）を組んだほか、シリーズ企画として「2040 年代のスペース天文学へ」「日江井榮二郎氏ロングインタビュー」を開始し、「海外の研究室から」も継続した。また、佐藤明達氏、牧田貢氏、藤森賢一氏の追悼記事を掲載した。運営面では、月報掲載記事の ADS 搭載用テキストデータ作成システムの構築（新潟大の飯田氏に依頼）、web 版天文月報の全記事公開、熊本大の高橋氏によるオーラル・ヒストリー取材記事の月報事業化、などを実施した。加えて、表紙デザインを通年の公募とし、告知時期も早め、報酬の増額も行った結果、今年度は例年以上に数多くの応募を受け付けることができた。

◇ 年会実行委員会

秋季年会（2024 年 9 月 11 日～13 日・ハイブリッド）および春季年会（2025 年 3 月 17 日～20 日・ハイブリッド）を開催した。両年会の準備にあたっては、2024 年 5 月 9 日、7 月 8 日、11 月 29 日、

2025 年 1 月 6 日、3 月 18 日にオンライン（3 月 18 日はハイブリッド）にて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催した。

◇ 天文教育委員会

春季年会及び秋季年会開催時に天文教育フォーラム（日本天文教育普及研究会と共催）をハイブリッド形式で開催し、それぞれ 100 名強が参加した。昨年度から新たに企画開催した中高生と教員を主対象とした対話型の講演会「中高生・教員と若手研究者の天文対話」（天文教育普及研究会、日本地学教育学会、茨城県教育委員会の後援）をハイブリッド形式で開催し、70 名強が参加した。講師紹介プログラムでは本年度 4 件の依頼に 2 名を紹介し、監修者紹介プログラムでは本年度 6 件の依頼に 8 名を紹介した。加えて、男女共同参画委員会と共同で女子中高生夏の学校で天文学の紹介展示などを行なうほか、約 2 か月に 1 度の定期的な委員会や国際天文学連合（IAU）の Office of Astronomy for Education（OAE）の活動など、天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

日本天文学会のウェブサイトについては、委託業者の支援を受けつつウェブサーバの保守・運用を行い、オペレーティングシステムの保守期限切れにともなうウェブサーバの更新に対応した。学会が運用しているメーリングリスト（TENNET）とそのアーカイブ公開は外部業者が提供するクラウドサービスを利用し運用を行った。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2024 年 9 月号並びに TENNET で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 5 日締切で会員に依頼した。12 月 8 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2025 年 1 月 14 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2024 年 9 月号並びに TENNET で第 36 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2024 年 12 月 16 日および 17 日に選考委員会をオンラインで開催し、候補者 3 名を選出し、2025 年 1 月 14 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 126 回から 129 回までの 4 回実施した。応募 62 件（前年度 49 件）から 29 件（うち 4 件辞退）（前年度 23 件）を選び、採択率は 47%であった。採択額は 5,909,310 円（前年度 5,798,231 円）、支給額は 3,041,674 円であった。

◇ 国内研修支援金選考委員会

2024 年度国内研修支援金の案内を天文月報（2024 年 6 月号）、TENNET 及び天文教育普及研究会、惑星科学会のメーリングリストにより行った。しかしながら、昨年度に引き続き応募者は 0 名という結果であった。学会からのメール等による応募の問い合わせ・研究指導に関する問い合わせは毎年 2-3 名程度という状況である。委員会内では「本支援金の制度そのものを見直す時期に来ているのかもしれない」という意見も出されている。

◇ 天体発見賞選考委員会

2024 年度の天体発見賞、天体発見功労賞、及び天文功労賞の第一回選考会議を、2024 年 12 月 15 日にハイブリッド形態（広島大学来てみんなラボ+Zoom 利用）で開催した。また、天体発見賞・天体発見功労賞では 12 月末日までの天体発見が受賞対象となることから、第二回選考会議を 2025 年 1 月 6 日にオンライン（Zoom 利用）で開いた。天体発見賞、天体発見功労賞については、TNS や、

CBET、MPEC、ATel 等の速報資料に基づき選考を行った。天文功労賞については、当委員会委員からの推薦に基づき選考を行った。なお、これに先立って天文月報 2024 年 9 月号および 2024 年 10 月に tennnet で天文功労賞候補者の推薦募集を告知したが会員からの推薦は 0 件であった。選考会議の結果、天体発見賞 5 氏 12 件、天体発見功労賞 5 氏 5 件の候補を選出した。天文功労賞（長期部門）については、4 件の中から 1 件 1 氏を選出した。天文功労賞（短期部門）については、数件の候補について議論があったものの、最終的に 2024 年度の短期部門の受賞候補は無しとした。これらの選考資料を 2025 年 1 月 14 日に開催された代議員総会に提出し、最終的に選考通りに受賞が確定した。また、2025 年 3 月 18 日に年会会場で開かれた各賞授賞式に出席する受賞者を待合室にて迎えて授賞会場へエスコートする役目を、天文教育普及賞選考委員会、及び日本天文遺産選考委員会と共に引き受けた。さらに、授賞式の後、水戸みまつホテルにて「受賞者を囲む会」を主催し、11 名の受賞者及び同伴者を始めとした計 32 名の参加を得た。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報 2024 年 7 月号、TENNET、および学会 web ページ、その他関係団体のメーリングリストなどで、日本天文遺産（第 7 回）の推薦を会員等に依頼した。2024 年 9 月 25 日にオンライン会議による選考委員会を開催し、3 件の候補を選出した。それぞれについて現地調査と、所有者および管理者の意向確認を行い、問題がないことを確認したので 2025 年 1 月 14 日に開催された代議員総会へ推薦した。総会では全件が日本天文遺産として認定され、認定結果を春季年会に先立つ 3 月 14 日の記者会見で発表した。認定証および記念品（楯またはパネル）の贈呈式を、3 月 18 日の会員全体集会において実施し、各所有者代表の 3 人が出席され、それぞれから挨拶をいただいた。なお、2024 年度から、推薦者の中に会員（正会員および準会員）を 1 名以上含むことを条件に、非会員も推薦者として遺産候補を推薦できることとし、また、選考期間を確保するため、募集締切を前年度よりも 1 か月早めて 8 月末とした。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

第七回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・TENNET を通じて 9 月末締切で推薦を依頼した。新たに 5 件の推薦があり、うち一件は昨年度推薦のアップデートであった。昨年度までの分を加えて全体で 25 件について、2024 年 11 月 7 日にオンラインにて選考委員会を開催した。都合により出席できなかった 1 名からも了承をもらった上、議論の結果 3 件（個人 2 件、団体 1 件）を授賞候補とすることを決定した。2025 年 1 月 14 日に開催された代議員総会で審議が行われ、提案通り授賞が決まった。その後、WEB サイトで公表され、授賞結果の詳細は 3 月 14 日に春季年会に先立つ記者会見で発表された。また、3 月 18 日の全体集会において表彰式を行った。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2025 年春季年会（茨城大学・水戸市民会館およびハイブリッド開催）にて第 27 回ジュニアセッションを開催した。2025 年 1 月 21 日の予稿提出締め切りを受けて、2 月 2 日にプログラム編成会議を国立天文台三鷹にて対面+オンラインで実施したほか、随時各委員、世話人が年会実行委員、開催地理事とともにメール等で連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表 6 件を含め、合計 63 件の発表（口頭およびポスター）申込があった。そのうち、現地会場での発表は 41 件であった。現地参加が発表者生徒 168 名、指導者 38 名に加え、年会参加の研究者、教育研究者、保護者等一般の方など約 360 名、オンライン参加者は約 70 名と推計され、のべ参加者数は約 430 名であった。予稿集を編集し、発行した。発表者には予稿集と参加証を配布した。予稿集は会場で希望者に約 50 部を配布したほか、ジュニアセッション HP から PDF を閲覧できるようにした。ハイブリッド開催として、口頭セッションはオンライン参加者も含めた全員参加で実施した。一方、ポスターセッションは、対面での議論が可能な現地会場のみで行った。さらに、発表資料を 4 月末までジュニアセッション HP から公開し、コメントフォームから投稿された各発表への質問・コメントをとりまとめて、発表者に送付した。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」にて、天文教育委員会とともに、大学院生らとポスター展示を行い、進路・キャリア相談カフェに参加した。学会員が利用できる支援などの情報収集を行いホームページの更新を行うとともに、男女共同参画委員会から数名、子育て世代・介護世代をサポートするための年会ハイブリッド開催にむけたタスクフォース、日本天文学会 Code of Conduct/ハラスメント防止ガイドライン策定タスクフォース、それぞれに参加し、活動を行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、他の 8 団体と協力し、第 32 回衛星設計コンテストを実施した。今年度は昨年度より 2 件多い 62 件（設計の部 5、アイデアの部 22、ジュニアの部 35）の応募があり、うち 1 件が海外（台湾の国立成功大学）からの参加であった。書面審査により、設計の部 2、アイデアの部 6、ジュニアの部 7 の合計 15 件が書面審査を通過した。それらを対象とした最終審査会は、2024 年 11 月 23 日（土）に、東京都千代田区の連合会館にてハイブリッド形式で開催され、審査により各賞が決定された。日本天文学会賞は、東京都市大学によるアイデアの部の提案「光害防止衛星シャドーサット」に授与された。3 部門それぞれの大賞は 1 件ずつ選ばれたが、文部科学大臣賞には昨年度に続き該当が無かった。詳細は <http://www.satcon.jp/> を参照されたい。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

5 月 15 日から全国同時七夕講演会の Web ページ上で対面開催およびオンライン開催の両方の講演会の登録受け付けを開始した。また、天文教育普及研究会の共催および日本学術会議と日本プラネタリウム協議会の後援を取得した。7 月 7 日の七夕の日や、伝統的七夕の日（令和 6 年は 8 月 10 日）を中心とした 6 月中旬から 9 月上旬の間に 45 会場の 76 件の講演会が実施され、これらのうち対面開催は 40 会場の 69 件（うち 3 会場 3 件の講演会はオンラインとのハイブリッド開催）、オンラインのみの開催は 5 会場 7 件だった。これらのうち 45 会場の講演会主催者から参加者の報告があり、当日参加者数と 9 月末までの講演会の視聴者数（録画も含む）の合計は 3896 人だった。

◇ キャリア支援委員会

2024 年度も、天文学コミュニティに属する研究者や学生がそのキャリアを切り拓いていくことを支援することを目的にさまざまな活動を行った。具体的には、オンラインの談話会である「キャリアカフェ」を 2 回実施した他、天文学と社会を繋ぐ職種の人事情報の収集（65 件）と発信、天文月報における連載記事の企画・執筆協力（シリーズ：アカデミアの外を知る、記事は投稿準備中）等を行った。天文天体物理若手の会の主催する夏の学校におけるキャリアセッションにも協力し、講演者の紹介および謝金・旅費の支援を行った。これらの活動については情報を整理し、学会ウェブサイトの方へも掲載を行った。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」（<http://astro-dic.jp/>）の更新・改良・維持運用を行っている。2025 年 5 月 14 日時点での登録用語数は 3,362 用語である。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。この 1 年間（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日）の内容更新数は 63 回である。並行して、制作委員による会議を毎月 1 回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。利用者からのフィードバックは 3 月 31 日までの 1 年間で 80 件あった。そのうち、約半数を占める、内容が妥当な指摘については適宜対応した。外部へのリンク切れも定期的にチェックし適宜対応した。総アクセス数は、季節変動があり、中学校・高等学校・

大学での利用が多く部分を占めていると予想している。2024 年度は月約 20 万アクセス程度が最大で、昨年度と比べて 1 割程度減少した。アクセス解析では反復利用者の割合が増加しており、アクセス数が昨年度より若干減少したことも含めて、本辞典の利用が市民に定着してきたことがうかがえる。スマートホン等のモバイル端末からの利用割合が増加してきたため、PC からの利用を想定していた従来のデザインからの変更作業を継続している。

◇ 日本天文学白書委員会

2 ヶ月に 1 回程度、Zoom による委員会を開催し、白書作成の方針や年会における特別セッションの開催について議論した。天文月報 2025 年 2 月号に委員会の発足や白書の趣旨などを説明する記事を掲載した。2024 年秋季年会において特別セッション「みんなで天文学の未来を語ろう！～日本天文学白書委員会発足～」を開催し、委員会の趣旨説明と宇宙論や星形成に関する講演、そしてパネルディスカッションを行った。また 2025 年春季年会において特別セッション「みんなで天文学の未来を語ろう！（第 2 回）」を開催し、天文学と社会に関する 2 つの講演とパネルディスカッションを行なった。

V. 各賞の授与(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

2024 年度日本天文学会各賞および日本天文遺産の認定は、2025 年 1 月 14 日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

◇ 林 忠四郎賞 (1 氏)

井岡 邦仁 (いおか くにひと) 氏・京都大学 教授
研究の表題「高エネルギー突発天体の理論的研究」

◇ 欧文研究報告論文賞 (2 編)

- ・論文題目：Precision radial velocity measurements by the forward-modeling technique in the near-infrared
著 者：Teruyuki Hirano et al.
出版年等：Vol. 72 (2020), No. 6, article id. 93
- ・論文題目：The origins and impact of outflow from super-Eddington flow
著 者：Takaaki Kitaki et al.
出版年等：Vol. 73 (2021), No. 2, pp. 450-466

◇ 研究奨励賞 (3 氏)

- ・Nugroho, Stevanus (ぬぐろほ, すてふあぬす) 氏・アストロバイオロジーセンター 特任研究員
研究の表題：すばる望遠鏡の高分散分光によるウルトラ・ホットジュピター大気中の
新分子検出と温度逆転層の発見
- ・藤林 翔 (ふじばやし しょう) 氏・東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教
研究の表題：連星中性子星合体における質量放出・重元素合成の理論的研究
- ・札本 佳伸 (ふだもと よしのぶ) 氏・千葉大学先進科学センター 特任助教
東京大学 助教
研究の表題：遠方銀河の多様な物理的性質の観測的解明

◇ 天体発見賞 (5 氏、12 件)

- ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏・8 件
超新星 2024gy の発見、超新星 2024ws の発見、超新星 2024exw の発見、新星 V1725 Sco の発見、
超新星 2024vfo の発見、超新星 2024vsu の発見、超新星 2024abf1 の発見、超新星 2024aduf の
発見

- ・大越 英比古（おおこし ひでひこ）氏・1件
超新星 2024ahv の発見
- ・中村 祐二（なかむら ゆうじ）氏・1件
新星 V6620 Sgr の発見
- ・小嶋 正（こじま ただし）氏・1件
新星 V4370 Oph の発見
- ・大野 眞一（おおの しんいち）氏・1件
超新星 2024aeee の発見

◇ 天体発見功労賞（2氏、3件）

- ・櫻井 幸夫（さくらい ゆきお）氏・1件
新星 V1723 Sco の独立発見
- ・板垣 公一（いたがき こういち）氏・1件
新星 V4370 Oph の独立発見
- ・山本 稔（やまもとみのる）氏・1件
新星 V4370 Oph の独立発見
- ・藤川 繁久（ふじかわ しげひさ）氏・1件
新星 V4370 Oph の独立発見
- ・中村 祐二（なかむら ゆうじ）氏・1件
新星 V4370 Oph の独立発見

◇ 天文功労賞

長期的な業績（1氏、1件）

- ・望月 悦育（もちづき えついく）氏
「60年以上の長期間にわたる均質性の高い太陽黒点の継続観測」

短期的な業績

- ・受賞者なし

◇ 天文教育普及賞（2氏・1団体、3件）

- ・加藤 恒彦（かとう つねひこ）氏
「4次元デジタル宇宙ビューワーMitakaの開発」
- ・一般社団法人 星つむぎの村
「インクルーシブな社会を目指す天文教育普及活動」
- ・村松 修（むらまつ おさむ）氏
「プラネタリウムによる天文教育普及への長年の貢献」

◇ 日本天文遺産（3件）

- ・「臨時緯度観測所本館（木村榮記念館）」
所有者：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構（国立天文台）
管理者：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構（国立天文台 水沢 VLBI 観測所）
- ・「三鷹 200MHz 太陽電波望遠鏡」
所有者：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構（国立天文台）
管理者：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構（国立天文台 野辺山宇宙電波観測所）
- ・「花山天文台（本館、別館、子午線館）」
所有者：国立大学法人 京都大学
管理者：国立大学法人 京都大学（大学院理学研究科附属天文台）

Ⅵ. 助成金(定款第 2 章第 5 条 5、7、9 項に該当の事業)

◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い予算総額 600 万円に対して、21 名に総額は 4,031,792 円を支給した。

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：

賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（関西学院大学）、春季年会（水戸市民会館）に参加して研究発表をするための一部補助を行った。（発表者：22 名、総額 472 千円）

◇ 国内研修支援金：

2024 年度に続き、2025 年度を対象とした国内研修支援金の応募者はゼロであった。

Ⅶ. 後援事業等(定款第 2 章第 5 条 8 項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの後援 11 件、協賛 7 件（共催 0 件）を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先（代表者）
2024/4/22	2024/7	後援	第 54 回 天文・天体物理若手夏の学校	天文・天体物理若手夏の学校事務局
2024/5/9	2024/7	後援	第 14 回高校生天文活動発表会	高校生天文活動発表会実行委員会
2024/5/9	2024/7、8	後援	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2024	特定非営利活動法人 natural science
2024/5/9	2024/7	後援	青少年のための科学の祭典 2024	(公財)日本科学技術振興財団
2024/5/9	2024/8	後援	第 70 回全国研究大会東京大会	科学教育研究協議会
2024/5/9	2024/9	協賛	第 42 回レーザーセンシングシンポジウム	(一社) レーザーセンシング学会
2024/5/17	2024/8	後援	第 38 回天文教育研究会	(一社)日本天文教育普及研究会
2024/6/21	2024/9	後援	第 6 回量子線イメージング研究会	量子線イメージング研究会実行委員会
2024/7/17	2024/10 ～11	後援	みたか太陽系ウォーク	三鷹ネットワーク大学推進機構
2024/7/17	2024/9	協賛	日本流体力学会 年会 2024	(一社)日本流体力学会
2024/7/19	2024/11	協賛	Optics & Photonics Japan 2024	(一社)日本光学会
2024/9/3	2025/2	後援	茨城大学×茨城新聞ニュースカフェ	茨城大学・茨城新聞
2024/9/10	2024/11	協賛	第 68 回宇宙科学技術連合講演会	(一社)日本航空宇宙学会
2024/9/19	2024/10	後援	2024 年度「三鷹・星と宇宙の日」	国立天文台
2024/9/30	2025/1	協賛	第 51 回冬期講習会	(一社)日本光学会
2024/10/9	2024/11	後援	八重山高原星物語 2024	八重山高原星物語実行委員会
2025/2/7	2025/5	協賛	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	(公社)日本地球惑星科学連合
2025/2/26	2025/9	協賛	日本流体力学会 年会 2025	(一社)日本流体力学会

Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条7項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、TENNET・天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長と副会長が中心となり選考した上で学会としての正式の推薦を行った（日本学術振興会賞1件、島津奨励賞1件、井上芸術賞2件、文部科学大臣表彰 科学技術賞1件（受賞決定）・若手科学者賞1件（受賞決定））。

Ⅸ. 事務所活動(定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員3名と6名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

Ⅹ. 会長候補者選挙(定款第4章第17条に該当する事業、「会長・副会長・理事・監事選考細則」に準拠する)

2025～2026年度の会長候補者を選出する会長選挙を行った。選挙公示（天文月報117巻10月号）に示した候補者募集期間の被推薦者は太田耕司氏1名だったため、細則第6条により投票は行わず、太田耕司氏を会長候補者とした。結果は、細則第9条に基づき理事会および代議員に報告すると共に、天文月報117巻12月号において報告した。

Ⅺ. その他

2019年度に男女共同参画委員会が実施したアンケート結果などを受け、2024年3月の理事会にて「ハラスメント防止ガイドライン」策定の提案が男女共同参画委員会よりあった。さらに代議員総会にて、ハラスメント防止ガイドラインに先立ち、学会としての行動規範（Code of Conduct, CoC）策定の提案があった。これを受けて、実務理事の主導で2024年6月に「CoC/ハラスメント防止ガイドライン策定タスクフォース」が発足し、「行動規範」の策定に着手。タスクフォースはアンケート等をもとに案をまとめ、理事会および代議員総会での承認を経て、2025年1月に「日本天文学会行動規範」を制定。2025年3月には英語版も制定。これに伴い、代議員総会での承認を経て行動規範に関する条文を定款に加えた。

会 員 数

2024年度末（2025年3月31日）現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2024年3月31日	2,314(646)	968	35	46	3,363
入 会	279(249)	41	0	1	321
退 会・除 籍 等 (うち 除籍) 注1	△189(117) (△26(0))	△81 (△13)	0 (0)	△1 (0)	△271 (△25)
移 籍 (増) 注2	5(1)	8	—	—	13
移 籍 (減) 注2	△8(0)	△5	—	—	△13
正会員へ (学生減) 注3	(△106)	—	—	—	—
2025年3月31日	2,401(673)	931	35	46	3,413

(注1：除籍とは会費未納による資格喪失を指す)
(注2：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)
(注3：学割扱いの正会員から通常の正会員への移動を指す)

(文責： 庶務理事 勝川行雄)